



えがお いっぱい

令和6年8月26日
富士市立富士南小学校
学校だより 9月号

小中一貫教育目標 「やさしく 生きる」
重点目標 「あいさつがいっぱい えがおもいっぱい」

8月・9月・10月の生活目標 「すすんで行動しよう」

夏休みが終わり、子供たちの笑顔が学校に戻ってきました。子供たちの会話の内容やその様子から、充実した日々を過ごしたことがうかがえます。また、2024パリオリンピックを観戦しながら、力を発揮しようと奮闘している日本の選手や外国の選手を応援した子どもも多くいたのではないのでしょうか。日本選手の男子体操やスケートボード等では、最後の大逆転劇がありました。自分がこれまで取り組んできたことやチームの仲間を信じて一生懸命がんばっている姿から、感動や勇気を与えてもらいました。子供たちも夏休みの間の経験や感動を次のことへつなげられるとよいと思います。

子供たちが大きな事故や事件に巻き込まれることもなく無事に始業できたのは、保護者の皆様をはじめ地域の方々が、子供たちを温かく見守り、御指導して下さったおかげだと思います。ありがとうございました。しかし、夏休み明け等、生活のリズムに変化があるとき、子供の心のトラブルが生じやすくなります。御家庭や地域において、お子さんや子供たちの表情や言動等に気を付けていただき、「おや？」と思うことがありましたら、遠慮なく担任や学校等に御相談ください。学校では、教職員が率先して「やさしく 生きる」ことを心掛け、温かな雰囲気の中で、学校生活のリズムを整え、安心して生活することができるよう、子供たちを支援してまいります。また、引き続き、高い危機管理意識をもって、熱中症対策、事故対策等に十分に留意してまいります。



◇「つなげよう、おもいやりの心」◇

夏休み明けの朝礼では、「おもいやりの心」をつなげることが周りの人を幸せにすることを伝えるために「地獄と極楽～三尺三寸の箸～」の話をしました。

ある日、閻魔大王が地獄の人たちに、ご馳走を与えました。ご馳走は、三尺三寸の箸（約1mの長さ）を使って食べることが条件です。地獄の人たちは、箸を奪い合い、それぞれがご馳走を食べようとします。ところがどうでしょう。箸が長すぎて自分の口に運ぶことができません。やがて、地獄の人たちは痩せて、目がぎょろとした鬼のような顔になっていきました。

閻魔大王は、極楽でも同じように箸を渡してご馳走を与えました。するとどうでしょう。極楽の人たちはみんな、ご馳走をお腹いっぱい食べることができました。どうしたと思いますか。極楽の人たちは正面に座っている人に、箸で挟んだご馳走を「どうぞ」と言って食べさせ、食べさせてもらった人は「ありがとう」と言って、今度は違う人に食べさせていました。自分のことよりも先に相手のことを考えて行動したのです。

自分のことだけを考えている人ばかりいたら、そこは地獄のようになってしまいます。周りの人を喜ばせようとする人がたくさんいるところは極楽です。周りの人を幸せにするから、自分も幸せになるんですね。自分がいる場所を極楽にするのか、地獄にするのかは自分の心で決まります。

「どうぞ」「ありがとう」をつなげて「思いやりの心・やさしい心」があふれる富士南小学校にしていきたいと思います。



夏休みが終わると、前期の締めくくりの時期になります。日々の授業はもちろん、子供たち一人一人が、思いをつなげ、学級で「楽しく学び合う」ことができるよう支援、指導してまいります。今後も、変わらぬ御理解と御協力をよろしくお願いいたします。